

一般質問とは、市が執り行う行政事務全般について、議員が質問を行うもので、本定例会では22人の議員が登壇しました。ここでは発言順に質問項目のみを掲載していますので、詳細につきましては富士市ウェブサイトの本会議の議会中継(録画放送)や2月末頃に発行予定の会議録を御覧ください。会議録は富士市議会ウェブサイト、図書館で御覧いただけます。

| | | |
|------------|------------|--|
| えんどう 遠藤 | もりまさ 盛正 | 1. 公共スポーツ施設の受益者負担の検討について 2. 富士川緑地の管理について |
| あらいえ 新家 | だいすけ 大輔 | 1. バセドウ病の啓発・早期発見について |
| もちづき 望月 | とおる 徹 | 1. 富士市からゆずりあい駐車場制度の拡充を一妊産婦の方などへの利便性向上を一 2. 終活支援事業の進捗状況と周知について |
| せき 閔 | あけみ 明美 | 1. 東海地方随一のぜんそく支援体制の確立と子育て環境の充実に向けて |
| いとう 伊東 | みか 美加 | 1. 東京デフリンピックへの対応について 2. 大規模災害への対策について |
| うえまつ 植松 | みつのり 光徳 | 1. 富士市で安心して出産できる環境整備について |
| こいけ 小池 | よしはる 義治 | 1. スポーツ行政が市民部と産業交流部にまたがっていることについて 2. 市有施設を活用した社会人向けリカレント教育環境の整備について 3. 市立図書館における時間制限のないフリーWi-Fiの整備について |
| いでの 井出 | はるみ 晴美 | 1. 幼保小のかけ橋期の教育の充実について |
| さの 佐野 | ちあき 智昭 | 1. 松枯れ被害の撲滅に向けて 2. 使えるまちづくり行動計画の策定に向けて |
| おぎた 荻田 | たけひと 丈仁 | 1. 富士駅北口駅前公益施設でのキャリアカフェの取組について 2. 富士市東部の富士山ビューポイントエリアの整備と活用について |
| さとう 佐藤 | きくの 菊乃 | 1. 「富士市へ戻り就職するこんなメリットが！」と若者と保護者へ周知するための手法について 2. 放課後等デイサービスをセルフプランで利用することについて |
| しもだ 下田 | よしひで 良秀 | 1. 富士市立中央病院ががんゲノム医療連携病院を目指すことについて 2. 富士市立中央病院における院内開業医師制度の検討について 3. 小中学校におけるバリアフリートイレの拡充について |
| こいけ 小池 | としあき 智明 | 1. 人手不足、公務員離れ、働き方改革等が進む中での建築系技術職員の確保・育成、業務推進体制の在り方について |
| ふじた 藤田 | てつや 哲哉 | 1. 旧吉原林間学園跡地の利用及び近隣の排水対策について |
| おの 小野 | やすまさ 泰正 | 1. 富士市の持続可能な観光と環境保全のための登山道等の整備について |
| すぎやま 杉山 | さとし 諭 | 1. 富士市職員による業務中の交通事故への対応について |
| はぎの 萩野 | もとゆき 基行 | 1. 保護者等からの学校への問合せを外部委託することについて |
| すずき 鈴木 | こうじ 幸司 | 1. 富士市の空き家対策及び空家等管理活用支援法人について 2. 水害常襲地域における都市公園予定地について |
| ささがわ 笹川 | あさこ 朝子 | 1. 本市の公共下水道事業におけるウォーターPPP導入の問題点について |
| いしかわ 石川 | こうじ 浩司 | 1. 観光施設である富士川楽座の在り方と体験館どんぶらのリニューアルについて 2. 今後の松野・富士川地区の公共交通について |
| ふくなが 福永 | むねと 意人 | 1. 富士市職員配置適正化計画について |
| いちかわ 市川 | まみ 真未 | 1. 歩きたくなるまちづくりについて 2. 公共施設の再編と市民参画について |

特別委員会の中間報告等

新病院建設特別委員会

8月5日、9月3日に新病院の建設についてを議題として開催しました。

●新病院の病床数を450床とすることについて
市医師会を含む審議会の反応は

問 今後の基本計画策定や総務省との起債協議に向けて、新病院の病床数を、現在の許可病床数520床から70床減の450床にすることですが、これは現在の入院患者数や病床利用率、今後の病院経営等を勘案した結果と理解しています。一方で、これまで市医師会から病床数削減に対する懸念が示されていますが、新病院建設基本構想等審議会ではどのような議論があったのですか。

答 これまで、市医師会に対して、現在の経営改善の取組や病床不足リスクへの対応策等を具体的に説明し、病床数削減への理解を求めてきました。それにより、9月1日に開催した審議会では特に反対意見はなく、新病院の病床数を450床にすることへの理解が得られたと考えています。

以上の質疑、答弁の後、当特別委員会としては、新病院の病床規模について、当局説明を了承することに決しました。

新たな特別委員会を
設置しました。



九州中央病院を視察する様子

九州中央病院(7月15日)

快適な有料個室の需要が高く、病床利用率は常に90%以上を維持しており、また、職員、患者ともICタグによる入退室管理など、セキュリティ対策が徹底されていました。また、個人への研究・研修費や業績に応じた決算賞与の支給などの制度や、医療機器の購入の際は費用対効果を厳しく評価するなど、健全経営に向けた取組がうかがえました。

長崎みなとメディカルセンター(7月16日)

PF方式により、1平米当たり25万円という低コストでの建設を実現しました。これは建設のタイミングや、職員の意識醸成、行政担当者が積極的に補助金獲得に動いたことなどの要因が挙げられます。一方で、人口減少やコロナ禍を経て、現在は病床数を減らして運用しており、柔軟な設計や医療需要予測に基づく病床数の検討が必須だと感じました。



(仮称)富士市の救急医療を守り抜く条例
検討特別委員会

(後列左より)

小池義治・佐野智昭・吉川隆之
(前列左より)

稻葉寿利・○望月昇・○杉山諭

◎委員長 ○副委員長

【設置理由】

市民が安心して救急医療を受けられる体制を安定したものにしていくためには、医療に関わる者の努力はもとより、市、市民、医療機関等が一体となって支えていくことが求められます。そこで、全ての市民が救急医療の意義を共有し、救急医療が健やかな生活の礎となることを願い、議員提案による政策条例として制定を予定している「(仮称)富士市の救急医療を守り抜く条例」について検討します。